

中国・深圳でスーパー事業



大規模商業施設の整備に向けて解体、整地作業が進む工業団地＝先月中旬、中国広東省深圳市福永地域（アサヒ電器工業提供）

アサヒ電器工業 （鶴岡）

再開発を機に進出

19年に1号店 県産品販売も視野

電子部品基板実装のアサヒ電器工業（鶴岡市、難波清一社長）は、中国広東省深圳市で進む大型商業施設整備事業に合わせてスーパーマーケット事業に乗り出す。中国国内の同社主力工場が立地する同市福永地域の商業モールの一角に店舗を設け、2019年1月の開店を目指す。

この店舗を足掛かりとして今後5年をめぐりに、福永地域でスーパーを計10店舗まで増設し、500億〜600億円の売り上げを見込む。既存工場は物流拠点として改修する計画だ。

第1号店は、商業モールの地下1階と地上1階のそれぞれ3千平方メートルに開設される。地下1階は食品を中心の販売、地上1階は日本製明のドラッグ商品を主体に取り扱い、コンビニ店などのテナント、日本食のフードコートを設置する。

同社は今年5月、深圳市の地元政府とスーパーマーケット事業進出に関する覚書を取り交わした。先月20日には、事業の経営母体となる貿易会社・山形朝日実業有限公司を100%出資の子会社として設立し、認可を受けた。

アサヒ電器工業 1984（昭和59）年、旧朝日村で創業した。電子部品のプリント基板実装を主体に事業を展開。88年に本社工場を鶴岡市外内島に移転した。中国で事業を拡大し、95年に深圳工場（広東省深圳市、社員300人）、2002年に蘇州工場（江蘇省蘇州市、同250人）を開設。96年に購買・物流拠点として香港に事務所を設けた。

輸出用品などで得ており、今後、順次品目を追加申請する。同社は県産品の中国国内での販売にも注力していく構えだ。

福永地域の工業団地は08年のリーマンショック以降、進出企業の閉鎖、撤退の動きが目立ってきている。こうした中で工業団地を商業地域として再開発するプロジェクトが進められており、第1期工事の対象面積は14万平方メートル。最終的には40万平方メートルまで広げ、集合住宅に加えて公共施設や学校、病院などを集積させる計画だ。

福永地域の人口は約140万人。現時点で、日系や欧米系のスーパーはなく、地域に密着した店舗展開をしていく方針だ。

工場（山形朝日電器有限公司）を沙頭角保税區に開設した。2002年に福永地域の工業団地に移設。最初の進出企業だった。進出から20年が経過し、契約更新手続きで昨年4月、地元政府と話し合った際、スーパー事業進出を打診された。「全くの異業種だが、現地政府の要請に応え、県内産品の海外での販売促進にもつながればという思いもあって、市場調査をした上で決断した」と1995年に中国現地法人を立ち上げた同社の難波昭会長。「食材はもちろん、品質や安全面で日本製品、日本企業に寄せられる現地の信頼は厚い。既に専門の人材の確保にも動いており、準備を着実に進めて軌道に乗せたい」と抱負を語っていた。

輸出用品販売の営業許可も取得。第1段階として米、酒類、メロン、枝豆、

スーパー建設予定地

完成予想（イメージ）

